



冬山開きを祝ってテープカットする関係者

冬山の「安全」「繁栄」を祈願 氷ノ山・八千高原・東鉢伏高原で冬山開き

氷ノ山・鉢伏山一帯の「冬山開き」が12月3日に八千高原で行われ、観光協会役員や地元区長ら関係者約50人が出席しました。人工ゲレンデの準備が進められる中、神事で出席者全員が冬期間の安全と繁栄を祈願。その後、関係者がくす玉割りとテープカットを行い、冬山観光シーズンのスタートがきられました。今年の氷ノ山での初冠雪は、例年より少し早い10月27日に観測されています。今後の順調な降雪により、観光産業の活性化が期待されます。



「火の用心」を誓って
市消防本部職員と一緒に餅つきをする園児ら

ペットタンゴで「火の用心」 幼年消防クラブが防火餅つき

12月7日、市立小佐保育所（園児25人）で防火餅つきが行われました。この行事は、八鹿地域の保育所で組織している「幼年消防クラブ」の活動として行われたもの。市消防本部職員が「ストーブの周りで走ったりしないように安全に冬を過ごしてください」と語りかけ、園児らは「僕たち私たちは火遊びをしません」と声をそろえて誓いました。この後、「ペットタンゴ、ペットタンゴ」の掛け声に合わせて、園児全

員が餅つきを楽しみました。お餅は園内で食べたり、保護者と一緒に地域の独居高齢者に配り、火の用心を呼びかけました。

幽玄の世界に酔いしれる

3年ぶりに八鹿観世能

12月4日、八鹿文化会館ホール・特設八鹿能舞台で八鹿観世能が催されました。

今公演は、養父市誕生記念と八鹿文化会館開館30周年記念事業として、養父市、養父市教育委員会、八鹿能舞台保存会、養父市文化協会などで構成する八鹿観世能公演実行委員会が主催したものです。

八鹿で能が催されるのは3年ぶりで、その時に修復された組み立て式能舞台の上で、「石橋」「末広がり」「船弁慶」などが、シテ役の観世喜之氏らにより上演されました。

約4時間にわたり繰り広げられた幽玄な能の世界が、700人を超える観客を魅了しました。



観客を魅了した能公演